

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】	
事業所番号	2870800964
法人名	株式会社 ジョイ
事業所名	グルーゾホーム ハッピージョイ
所在地	神戸市垂水区桃山台7丁目5-10
自己評価作成日	令和4年5月30日
	評価結果市町村受理日 令和4年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wain.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人COSオウチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和4年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】
 開設19年目を迎え開設当初に入居された利用者は104歳になられ元気な状態で過ごされています。当施設では、年々利用者の高齢化並びに重症化も進んでいるが住み慣れた場所で最後までという理念に基づき施設での生活を継続出来るよう体制を整えています。現在は、コロナ対策の為に以前のように各階集まって交流する事は控えていますが、テラダを利用してフロンターで花を育てたり、ホールを広く開放し音楽をかけながら歩いて運動などをしたりと各階職員が色々と考えて過ごして頂いている。又、天気の良い日は近くの公園まで散歩する事を日課とし健康に過ごして頂けるよう取り組んでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・住み慣れた場所です。最後までという理念のもと家庭的な環境で終末を迎えられる事を基本とし、職員研修に理念と看取りの知識を共有し日々理念に基づき利用者支援を実践している。日々の関わりの中で声を掛け、どのように暮らしたいか一人ひとりの思いや希望、意向等把握し、職員全員が一人ひとりの行動や表情に関心を払う、本人の視点にたって意見を話し合い、きめ細やかな対応をしている。
 【工夫点】・「歩こう運動」を毎日の活動として取り組まれている。コロナ禍で外出行事の計画が難しいが屋内で身体を動かす機会として有効活用している。利用者と一緒に畑で野菜作り、収穫した夏野菜はメニューの一品に加え提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23.24.25)	56	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.19)
57	利用者ど職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18.38)	57	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2.20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	58	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36.37)	59	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11.12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	60	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30.31)	61	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	62	

自己評価および第三者評価結果

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【住み慣れた場所で最後までという理念のもと家庭的な環境で終末を迎えられる事を基本としている。又職員研修にて理念と看取りの知識を共有している。	事業所理念を玄関入ったフロア一壁のボード等に掲示し、管理者と職員は職員研修で理念に基づく看取りの知識の共有を図り実践に繋げている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい、 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により現在地域のボランティアは中止している。利用者様は、職員と近所の公園まで散歩し、近隣の方と少しでも交流を持てるよう配慮している。	コロナ禍以前は散歩や音楽療法等地域のボランティア活動を取り入れ実施してきたが、現在は中止し、代わりに近所の公園に散歩にだけ、近隣の方達と少しでも交流が持てるよう配慮し実践している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方への対応や具体的な支援方法などをお伝えしている。利用者様の家族様からの相談にも対応している。			
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、施設での活動や取り組みなど報告。地域活動など議題にあげ相談し、サービス向上に向けて職員と共有している。又、事故やヒヤリハットの件数など毎回会議で報告し意見交換している。	コロナ禍によりしばらく中断していたが、この4月よりあんしんすこやかセンターや名谷すみれ苑、桃山台自治会、民生医院、調剤薬局運営者等に対し施設の活動等の報告、事故・ヒヤリハット件数等報告し、意見交換を行いそこでこの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議で事故・ヒヤリハットを記載報告をしているが、ヒヤリハット数に比べ事故数がうわまわっている。ヒヤリハットの意義を理解し、各月事故数、ヒヤリハットは数への折れ線グラフ活用による見える化推進を図り更なる事故数減へ向けた活動が期待される。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	神戸市高齢政策課や介護保険課に電話で相談したり、メールで色々な情報を送っている。市との連携をとることで、コンプライアンスに重視した風通しの良い施設になるよう取り組んでいる。	神戸市高齢政策課や介護保険課に相談がある毎に電話やメールで積極的にやっている。その意見等をサービスの質向上に繋げ、風通しの良い施設になるよう努めている。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束をしないケアの実践に取り組む。職員同士意見交換し研修などにより身体拘束ゼロに取り組んでいる。玄関の施設は、目の前が川という立地であることから職員による開錠方式をとっている。	年2回身体拘束をしないケアの研修を実施して職員同士で意見交換を行い、指基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し身体高速ゼロに繋げている。玄関施設は施設前に川がある為、職員が開錠している。		
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待防止の研修を行い「虐待とは何か」「職員同士で意見を出し合い注意し合える環境作りをしている。	管理者や職員は、年2回虐待防止演習を実施し高齢者虐待防止関連法を含め、職員同士で意見を出し合い言葉づかいや職員のスマホチェックを含め注意し合い、虐待が見逃ごされる事が無いよう注意を払い防止に努めている。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) 〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を含め権利擁護に関する制度の内容を理解するよう職員研修を行っている。実際に制度を活用されている方も数名入居されている。	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容を理解するよう職員研修を行い、現在成年後見制度活用者が数名おり、後見人等と話す機会の活用等の支援を行っている。		
9	(8) 〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に契約内容の説明をし、納得して頂いた上で契約している。契約後でも疑問があればその都度、管理者が説明し理解して頂いている。	契約の締結等の際は利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得して戴いた上で契約をし、契約後でも疑問があればその都度、管理者が説明し、理解をして戴いている。		
10	(9) 〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族様が意見や要望を管理者及び職員に伝えやすいような雰囲気作りを心掛け、介護計画作成の時にアンケートを実施し、意見要望を聞き反映している。	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員に伝えやすいような雰囲気作りをし、介護計画作成時にアンケートを実施して意見や要望を聞き反映している。		
11	(10) 〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや定期的な面談を実施している。又、フロアアリーダを窓口に関連する職員の意見や提案を受けとめ、話し合いの場を設けている。	管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会として職員アンケートや定期的な面談を行い、又フロアアリーダを窓口に関連する意見や提案を受け止め、浴槽内の滑り止め交換等を実施している。		
12	〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のコミュニケーションとチームワークを大切にし、現場で働く職員の志気を高めやりがいやサービス向上に繋がるように努めている。			
13	〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修（現在はオンライン）に参加している。ケアに対する力量が個々に違う事をふまえ個人的に介護指導したり、研修内容も工夫するようにしている。			
14	〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とネットワークを利用して簡単にコミュニケーションがとれるシステムを利用したり、Zoomでの研修にも参加している。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入所面談時に説明し要望の聞き取りを行っている。入所後は利用者様に寄り添い尊重し、不安を取り除いて頂けるよう心掛けています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	入所前面談時に家族様の要望をお聞きしている。又、要望などは出来るだけ迅速に対応出来るよう心掛けています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と利用者様の身体状況や精神状態を考慮希望に添えるよう支援している。又、特養入所待ちの方の受け入れも行っている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たみ園芸などに取り組んで頂き役割を持って頂くよう対応している。職員は、利用者様の気持ちに共感し寄り添い同じ時間を過ごす事で関係を築いている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な物品の購入をお願いしたり、現在はコロナ禍で控えてますが通常は色々なイベントを開催し、イベント時には家族様がお手伝いして下さり職員利用者様共に作り上げている。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為今までのような外出は控えてますが、以前はご友人が受診や選挙に連れて行かれたり、度々面会に来られ良い関係を長く続けられている。	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を継続できるよう支援している。コロナ禍で面会制限はあるが1階フロアで15分間2名での面会や玄関ドア越しでお孫さんとの交流するなど馴染みの方との関係が途切れないよう機会を設けている。		コロナ禍で面会の機会が減ってしまいましたが。普段の暮らしや行事での様子など動画で家族等に送るのはいいかがでしょうか？
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍で以前のように各フロアが集まってレクをするなどの交流を持っていないが、職員が手作りして神社を作り各フロアで初詣をしたり、少しでも利用者様と関わり楽しんで頂けるように努めている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も娘様がボランティアとして来所されたりお父様の看取り後にお母様の入所を希望される息子様もあり、退所後も出来る限り相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通じて本人の意向を聞き意志を尊重している。現在も園芸が趣味の利用者がボランティアで花を育てており一人一人の希望に添えるよう支援している。意思疎通の難しい方には表情などを観察しながら対応している。	日々の関わりの中で声を掛け、どのように暮らしたいか一人ひとりの思いや希望、意向等を把握している。職員全員が一人ひとりの行動や表情に関心を払い、本人の視点にたつて意見を出し合い話し合いし対応している。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	業務日誌や生活記録などで情報を共有している。又、日々の生活での会話、表情、行動などの日常動作を観察し現状把握に努めている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間では、フロア会議などで意見を出し合いご家族様には、電話や書面で意向の確認を行い本人に適切な計画書を作成している。			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の生活記録、業務日誌、申し送りノート、口頭での申し送りなどで職員間の情報を共有を徹底している。その上で状況に即した介護計画を作成している。	ご本人には関わりの中で思いや意向を聞く。家族には電話や書面で意向を確認し反映させている。アセスメントを含めフロア一会議などで活用し職員全員で意見を出し検討している。具体的な内容及び回数を設定した介護計画を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている				
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ異なるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組みんでいる	マッサージや散髪などの訪問。眼科、皮膚科、歯科など必要に応じて往診して頂ける体制をとっている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年なら自治会の公園掃除や盆踊りに参加していたが、コロナ禍の現在は職員と近場に花見に出かけたり、畑で野菜を作ったりして楽しんでいる。又、レクリエーションにも工夫している。			
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医への受診、往診も引き続き利用している。医療も24時間対応で本人及び家族様の安心に繋がるよう支援している。	ひとり一人の利用前の受診の経過、現在の受診の希望を把握し、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による支援が行われている。内科医による月1～2回往診を利用し24時間体制が整備されている。6月から歯科衛生士の訪問で口腔ケアが開始された。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相話し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の状態を看護師に報告し連携体制をとっている。訪問看護は週に一度来所し職員と情報交換をしながら色々な角度から利用者様の状況確認している。			
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し病院に提供している。退院時には病棟ナーズや相談員と情報交換を行い退院後の環境を整えている。	入院時は本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。なるべく混乱が少なくいよう、本人の普段の状況や特徴など伝えながら退院準備と回復状況の情報交換し必ず参加し速やかな退院支援につなげている。		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向にそった終末期を迎えられようように努めている。職員はターミナルケアを共有し、24時間可能な医療体制を整えている。	本人や家族の意向を踏まえ、本人にどうあったらよいか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえええ方針を職員で話し合い対応している。安心して納得のいく最期を迎えられるように、随時意志を確認し、その内容は担当職員で共有し取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変や事故発生時の研修や訓練を行い職員全員がAEDを使用出来るよう心掛けていく。緊急時のマニュアルを作成し職員の見の届く所に置いていく。			
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、消防訓練を実施し地元消防団の職員により災害時の対応について、指導を受けている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプログラマーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプログラマーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉かけや対応をし、人格を尊重し「否定せずに接する。又、プログラマーの保護に関しては施設、職員が主体性を持って保護する。	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応になっていないか人前であからさまに介護していないか目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では、本人の選択を最優先にして支援するように努めている。又、利用者様の訴えは否定せずに受け止めた上で出来る限り希望に沿うようにする。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや日課計画表はあるが、利用者様の体調や意向に考慮し過ぎて頂いている。レクリエーションの参加も自己決定を促して頂いている。			
39	○身だしなみやおしゃやれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃやれができるように支援している	衣類の選択は、出来るだけ自己決定して頂いている。訪問内容を利用する際は、本人の希望を重視している。散歩の時は、施設で用意している色々な帽子を本人に選んで頂くようにしている。			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューをお伝えし、職員とお話したり食事内容で食器を変更し盛り付けも工夫している。食事後は、食器洗いをされる利用者様もいる。	食事前の嘔下体操や今日のメニューを皆で確認します。食欲を高めたり、食事への関心を引き起こすための工夫をしている。利用者と一緒に収穫した夏野菜を使った料理を一品添えたり、テーブル拭きや片づけなどお手伝いさせていただきます。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	食事量や水分量は摂取表にて管理し調整するようになっている。利用者様の咀嚼、嚥下状態に合わせて刻んだリペースト状にして提供している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人のケアに合わせたケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂き、不十分な時は職員が介助しています。口腔ケアスポンジやスウオッシュ等も使用している。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。個人に合わせた時間毎のトイレ誘導を行い自力排泄の支援を行っています。	トイレでの排泄を可能にするため個々のサインを全職員が把握しあからさまな誘導ではなく、さりげない支援をしている。車椅子の方も日中は職員の手引き移動でトイレで排泄していただく。排泄困難な要因を丁寧にチェックし個別の排泄支援を展開している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し状況を確認し医療職と連携して対応している。散歩、体操、水分量に気を付け腹部のホットパックなど行いケアの一に取り組んでいる。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミンングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	本人の意思、タイミンングに出来る限り対応し入浴して頂いている。本人の体調によっては、足浴や清拭を行っている。又、柚子湯や菘蒲湯など楽しみにされている。	週2~3回は入浴していただく。重度化に伴い1階設置の特殊浴槽を活用する。その場合も二人体制で支援している。入浴を拒む方に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ個々の生活習慣に合わせて就寝時間に対応している。夜間帯は不安になられる方も多いので、声かけしたり職員が側にいる事をお伝えし安心して頂いている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、往診後に処方の変更がある時は、看護師からの説明を受けファイナルを確認する。又、服薬介助時は声出し確認し、飲み込みまで確認支援している。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった時間の楽しみ方をして頂くよう支援している。園芸や塗り絵が好きな方や計算や字を書くのがお好きな方には問題集なども頂いている。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナ禍でなかなか外出は出来ない状況ですが、職員と近所を散歩したり近くまでドライブしたりしている。	コロナ禍ではあるが五感刺激を得られる貴重な機会として玄関前の花壇を見たり、ほぼ毎日散歩に出かけています。車椅子の方も内を皆で歌をうたいながら行進をします。ポール投げや紙芝居など楽しみとなる行事を取り入れ活動の機会としています。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は職員と一緒に買い物に出掛け、品物を選ばれしじでお金を支払うところまで支援していたが、現在はトラアル防止の為お金は所持されていません。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、ご本人に書いて頂くようにしている。本人希望時は家族様に電話し会話を楽しませている。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、利用者様と職員が一緒に作った壁画を飾り、居室のドアには季節を感じて頂けるような飾りつけをしている。又、玄関には職員の手作り作品を色々飾り、利用者はそれを見て喜ばれている。	共用の空間が利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう共有スペースは、利用者や職員と一緒に作った季節を感じる飾りつけをして又玄関には職員の手作りの作品を飾り利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とダイニングスペーススリビニングスペースに分けお好きな場所でお好きな様に過ごして頂けるように工夫している。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品など持ち込まれている。ぬいぐるみや写真も飾られたり、仏壇も持って来られ安心して過ごされている方もいる。	居室は本人や家族と相談し、使い慣れた家具や装飾品、ぬいぐるみや写真を飾ったり、仏壇を持ってこられ安心して過ごされている方もおり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており車椅子や歩行器の方の移動も可能になっている。ホール内には手すりも設置しており安全に歩行出来るよう工夫している。			